

出品番号：No.6
作者名：木村昭司
作品名：風景 Collection



《このプロジェクトについて》

2016年、風景スケッチを10数年振りに再開し、およそ1年半が経過しました。自宅から半径2kmくらいのエリアを歩きながら、気に入った風景や気になる風景をスケッチブックに描き留める日々です。

ほぼ毎日1～2枚ずつ描いていくうちに、私の「風景Collection」ができあがってきました。

画材は鉛筆、コンテ、サインペン、万年筆、そして筆ペンと徐々に増えてきましたが、基本はモノクロームです。

スケッチを始めてから、風景を「描く対象」として見るようになり、今まで見過ごしていた事物に目を止めるようになりました。畑に残されたトラクターの轍の線がとても美しく見えたり、1本道が遠くまで伸びる有様に心を惹かれたり、樹木の太い幹や瘤の盛り上がり生命力を感じたり。大げさに言えば、世界が今までとは違って見えてくる感覚。

風景Collectionがいつまで続くか、今後どのように展開していくかは分かりませんが、しばらく創作活動から遠ざかっていた私としては、これらのスケッチが新たな作品制作につながっていくことを、実はひそかに期待しているのです。

2018年に入り、キャンバスにアクリル絵の具で風景画を描き始めています。「風景Collection」の展開ということになりますが、単にスケッチを絵筆でなぞるのではなく、より抽象化した表現を目指しています。

しばらくは試行錯誤が続くことになると思います。

《展示風景》



F1～F4のスケッチ13点を4枚のパネルに入れて展示しました。スケッチブックから切り離した「穴」をあえてそのまま残しましたが、それが気になった（＝ない方が良かった）という感想をいただきました。



「穴」をカットし、額装すれば「作品」らしくなったかもしれませんが、これらのスケッチ群は完成した作品ではなく、将来の作品の萌芽と考えていますので、このような展示形式としたものです。